

じょうほうつうしん  
「情報通信ネットワークを実現したい」  
じつげん  
せんだうしや  
情報通信事業の先導者

かなおか こうじ  
金岡 幸二



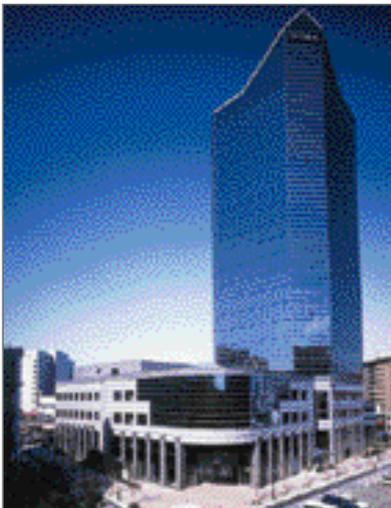
戦争の体験が人生を変えた

人々の幸せのために、社会のために、精一杯働きたい。

金岡幸二さんは、いつもそう考えて行動する人でした。

実は、幸二さんの生き方を大きく変えたのは、戦争の体験でした。

子どもころ、「兵隊になって日本の国を守ろう」と考えた幸二さんは、陸軍幼年学校から航空士官学校へと進みました。幸二さんは厳しい訓練を乗り越え、学校を卒業した後、特攻隊の一員として中国



JR富山駅の北に建つ「タワートリプルワン」

「タワー111(トリプルワン)」は、高さ111メートルで、富山市のシンボルになっているんだよ。

これからの世の中はコンピュータがきつと役に立つはずだ。でも、コンピュータはとても高価だし高度な技術も必要だ。もっと多くの人が使えようにするにはどうしたら良いだろう...? ?

創業者である金岡幸二さんは、どうしてコンピュータに興味を持ったのかな？

時代に先がけて、情報通信サービスに取り組んだインテックという会社のあるビルだね。



金岡幸二さんのミニ年表		
西暦	年齢	
1925年		滑川市の石坂家に生まれる
1945年	19歳	航空士官学校卒業、特攻隊の一員として旧満州に渡り、中国で終戦を迎える
1949年	23歳	東京大学工学部を卒業 金岡家の長女千鶴子と結婚する
1964年	38歳	株式会社富山計算センターをおこす J.P.エッカート氏と会見する
1970年	45歳	社名をインテックに変更する
1985年	59歳	株式会社プラネット代表取締役社長になる
	60歳	社団法人特別第2種電気通信事業者協会会長になる
1989年	64歳	チューリップテレビの代表取締役社長になる
1990年	64歳	富山国際大学を創設し、富山国際学園理事長に就任する
1993年	67歳	亡くなる



インテックのネットワーク・コントロール・センター(横浜)

北東部(旧満州)に渡りました。ところが、そのわずか数か月後に終戦を迎えたのです。

日本は戦争に負けてしまった。われわれの部隊はこれからどう行動するのだろう。自決(自殺)か、それとも中国の大地で死ぬまで戦うのか。どちらにしても、部隊長の指示に従わなくてはならない。

幸二さんは、死を覚悟していました。

しかし、部隊長は、帰還命令を出しました。

「将来ある若い諸君らは、どんな困難があっても帰還しなければならぬ。生きのびて、祖国の再建に尽くせ」

こうして、幸二さんは無傷で帰ってくる事ができたのです。そして、この部隊長の言葉が、幸二さんの後の生き方を支え続けました。

## 「コンピュータで世の中を変える」

生きて帰ってきた幸二さんは、「人生をやり直すんだ!」と強く決意し、夜も寝ないで勉強しました。日本の社会を立て直すためには、アメリカのような技術力が必要だ。

そう考えた幸二さんは、東京大学工学部に入学しました。そこで幸二さんは、「生涯の師」と尊敬した山内二郎教授と出会いました。

山内先生は、コンピュータについて勉強するきっかけを幸二さんに与えてくれました。

「アメリカには、複雑な計算を短時間でやってしまう機械があるぞうだ」

そんな便利な機械が、この世にあるなんて! 幸二さんは目を輝かせ、さっそくその機械につい

て勉強をはじめました。

そして、今から40年ほど前、コンピュータについて知っている人が、まだそんなに多くなかったところに、17人の仲間と富山計算センターという会社をおこしたのです。

将来、きっとコンピュータの時代が来るに違いない。

幸二さんは、そう考えていました。

しかし、コンピュータはたいへん高価で、そのうえ、使いこなすには高度な技術が必要だ。もっと安く、もっと簡単に利用できれば、みんな、きっとコンピュータを使いたいと思うだろう。

幸二さんは、コンピュータにかかる費用を考えました。

「そうだ、多くの会社や団体が、一つのコンピュータを共同で使えば、費用は安くなるはずだ。」



家族の写真。右から2番目が幸二さん。



コンピュータを使って  
仕事をする幸二さん。  
(滑川市立南部小学校  
6年 高橋雅晴さん)



富山計算センターのころ。

そのために、まず、コンピュータをもつ会社をおこそう。そして、その会社のコンピュータを使って、他の会社の仕事の一部を代わりにやるというサービスを提供したらどうだろうか。

しかし、はじめのころは、幸二さんの考え通りにはいかず、仕事の注文はなかなか取れませんでした。「そんなことに、お金は使えない」

そう考える会社が多かったです。  
しかし、幸二さんはあきらめませんでした。

## 時代の先を見つめて

会社を設立して間もなく、幸二さんはアメリカに行く機会があり、「コンピュータの父」と言われていたJ・P・エッカートという人物に出会いました。

「今後いろいろな面で、コンピュータの世話になるだろうと予測する人が、日本にもいます。コンピュータをもつと気軽に使いたいと考えているのです。エッカート先生、そういう希望に応えるような仕事、私にできるでしょうか」

「ミスター金岡、コンピュータ関連の仕事はたくさんあります。一つはコンピュータそのものを作るメーカーの仕事、もう一つは、世の中のためにコンピュータをどう使うかということを考える仕事です」「コンピュータを使って、情報のサービスをするということですね」

「たとえば、どうして明かりがつくか、人はあまり考えないでしょう。つまり、電力や送電線、発電所のことなど気にもせず、当たり前のこととして、電気の便利さを楽しんでいますね。それと同じように、



「タワートリプルワン」の上棟式を喜ぶ幸二さん。  
(滑川市立南部小学校6年 高川みづきさん)

コンピュータや通信のことを考えなくても、すばらしい情報を自由に使うことができれば……」

そんなことができたなら、どんなに便利だろう。幸二さんの胸は高鳴りました。

「そうか、分かった！ みんなが必要としているものは、コンピュータから得られる便利さなんです。電気や水道のように、いつでもどこでも、誰でもコンピュータ・パワーを使える社会を、なんとかつくってみたい」

幸二さんは、コンピュータと通信を一つにし、コンピュータ同士を結びネットワークをつくり上げることを考えたのです。

## 情報のネットワークサービスを

コンピュータのネットワーク化を考える幸二さんの前には、困難が待ち受けていました。



幸二さんと祖父・父：幸二さんのお祖父さんは政治家、お父さんは裁判官でした。二人とも不正に対して厳しく、純真な心で人々の幸せを願う人でした。幸二さんもまた、「社会のために働きたい」という思いで一生を過ごしました。

## 子どもたちの感想

滑川市立南部小学校 6年生の  
お友達の感想です。

学校で資料を見ていて、金岡さんは、自分のやりたいことがちゃんとできていいなあ」と思っていました。金岡さんが新しい人生を歩み始める時、落ち込んでいたと思うのに、富士計算センターを新しくつくり、他の仲間と一緒に頑張っているのがすごいと心に残りました。タワートリプルワンの完成も見られずに亡くなられたけれど、最後まで頑張ったから今のインテックがあるのだと思います。

(細川さつきさん)

僕がインテックに行つて心に残つたのは、金岡さんの言葉です。「わたしの銅像を残すより、わたしの心を残してほしい」という言葉はとてもすばらしいと思いました。でも、そんなすごい人でも、子どもたちはごく普通の人だったので、ぼくも今からだと思います。

(中嶋俊文さん)

インテックに行つて、いろいろなことを学びました。「夢」は大切なことだと分かつてもうれしいです。わたしの将来の夢は、まんが家になることです。みんなが楽しんでくれるのが一番うれしいです。わたしも、最後まで夢をもち続けます。わたしたちが今コンピュータを使えるのも、金岡さんや中尾さんたちのおかげだと思いました。(滝川理絵さん)



滑川市立南部小学校の6年生のみなさんが、インテックを見学して中尾社長からお話を聞きました。



幸二さんの信念は、「人生は短い。だから、一日一日、一時間一時間、一瞬一瞬を大切に生きていくこと」というものでした。

そのころは、国が通信回線を独占し、自由に使うことができなかったからです。しかし、幸二さんは通信の自由化を求め、猛然と立ち向かいました。やがて幸二さんは、情報通信の社会を引っ張っていく存在となりました。会社名をインテックに変更し、情報のネットワークサービスや通信衛星、国際VAN(さまざまなサービス付きの通信)の分野へと進出していったのです。

1993(平成5)年、インテックの新しい本社ビル「タワートリプルワン」の上棟式が行われたとき、幸二さんの目には、日ごろ見せたことのない一筋の涙がありました。

困難を乗り越えてきたそれまでの思いと未来に向かう夢が、胸を熱くしたのでしよう。

コンピュータを使って便利に暮らせる世の中になりたい。「タワートリプルワン」は、幸二さんが人生をかけて追い求めた夢の証なのです。

コンピュータって、絵を描くこともできるよね。

ぼくは、インターネットを使って、よく調べものをしているよ。

私は、学校のパソコンで海外のお友達にメールを送ったことがあります。コンピュータは、本当に便利ですね。



金岡幸二さんのように、便利で新しい技術に関心を持った先輩は数多くいました。世界的な化学者で、実業家でもあった高峰譲吉さんも、そのうちの一人です。